平成１５年度英語教員指導力向上研修「授業改善プロジェクト」　　番号１５０５５

基礎・基本を定着させ、表現力を身につけさせるために

所属　佐川町立佐川中学校
氏名　岡村賀津
ＲＧ　ＪＨ３

１　研究の背景

佐川中学校は、生徒数３４８名、学級数１１学級の中規模校である。佐川町内には、中学校が３校あり、本校はそのうちの１校である。生徒は全体的に落ち着いており、部活動も盛んに行われ、学習にも真面目に取り組めているが、一部の生徒の勝手な行動も見られる。

担当している２年生は、問題を抱えている子どももいるものの、元気で明るく活発である。英語に興味をもっている生徒もおり、意欲的に授業にも取り組める。元気があり、理解できているように思われるが、中には英語を読むことができない生徒もおり、全体の雰囲気とは違う課題がある。「英語は苦手だ」という声が生徒自身からよく聞かれるが、それぞれがもっとわかりたいという気持ちをもっていると思われる。

２　リサーチクエスチョン

基礎的な単語、語順を理解させ、多くの場面で英語を使うことにより、表現力を身につけさせるには

３　予備調査

（１）観察結果

・教師が英語を話すことに抵抗がある。
・音読が苦手である。
・品詞の区別がつかず、文の語順を理解することが難しい。
・個人差がある。
・進んで発表する生徒や班が固定しがちである。
・集団の力が弱い。

（２）観点別到達度学力検査（ＣＲＴ）の結果

いずれの観点でも「Ｃ・・・努力を要する」に属している生徒の割合は全国平均を上回っている。特に、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力の２つの観点については全国に比べ、得点率が低い。

（３）アンケートの結果

英文を読む、単語を覚えるなどの活動以外は半数以上の生徒が、難しいと感じている。特に、日本語を英語にする、自分の思いを英語で書くなど、英語でまとまりのある文をつくることを苦手とする生徒は多い。

４　仮説の設定

仮説　１

語彙量を増やすための活動を授業に取り入れる。

仮説　２

身近な事柄に関して、できるだけ英語に触れさせるよう、授業始めに聞き取りや Free Talk を行う。

仮説　３

教科書をしっかりと音読したり、暗唱することにより、その内容を自分のことに置き換えて言わせたり、書かせたりして表現力をつける。

５　計画の実践

○仮説１の実践

読めない単語を覚えるのは困難である。耳で聞いて意味が理解できても、読み方がわからず、文字を単語としてとらえられない。それを解消するために、週１時間の習熟度別クラスでフォニックス指導を行った。また、ビンゴやアナグラムなどゲームを、抵抗なく興味をもって１つでも多くの単語が意識して定着できるよう、取り入れた。

○仮説２の実践

授業始めに季節の話題や行事、人物などについてＡＬＴが来校したとき等を利用して話した。

○仮説３の実践

・ペアやグループを利用して音読練習をしっかり行った。
・ワークシートを使って要点となる単語や語句を抜いた練習や日本語と対比させて言う練習をする。
・それぞれが音読練習の到達目標を決める。
（速さ、read and look-up 、Shadowing など）

６　実践の結果と検証

習熟度別クラスで行ったフォニックス指導は１年生、または４月の段階から継続してやれば、効果があったかもしれない。しかし、英語を読めない子どもたちにとって、１つの単語がただの暗号としておわらないよう、音を意識して指導することにより、英語が読めるようになるきっかけになればと思う。

簡単な会話や話題も英語で話すと抵抗があるようで、わかる子どもには興味があることでも、日本語で確認をしたがったりして、英語により多く触れさせることはできたかもしれないが、そのことが子どもの表現力につながったとは言えない。

音読練習の成果を見るため、定期テストでは教科書本文の内容理解の問題を課した。学習量などの個人差はあるものの、音読を授業でしっかりと行った内容についてはよく理解できているように思われる。

７　今後の課題

２学期は行事に追われ､落ち着いて授業に取り組めるようになったのは１１月だった。時間的な余裕がないことを言い訳に、具体的なデータもなく、ひとつのことを重点的に実践し、検証できなかったことが大きな反省点である。もっと具体的な仮説にしぼる必要がある。新たな仮説を設定し、生徒が飽きない音読指導の工夫をリサーチしたい。